

平成18年度特色ある大学教育支援プログラム(特色GP) 学生ワークショップを開催

へき地教育実習の体験を交流する特色GP学生ワークショップ「小さな学校……大きな感動ーへき地教育実習での体験と学びー」を3月3日(土)、岩見沢校大会議室において開催しました。

これは、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に選定され、平成17年度から4年間にわたり取り組んでいる事業で、「へき地・小規模校教育実践プログラムの開発ー地域と未来を開く教師教育ー」をテーマとした取組の学生ワークショップで、へき地教育実習を受講した学生の体験を発表し、実習の受け入れ校や道外の実習の話を通して、その全体像を把握し、へき地教育実習体験の持つ意義について考えることを目的としています。

当日は、本学学長をはじめ、関係教員、学生など約40人が参加しました。

午前の部では、札幌校、旭川校、釧路校並びに岩見沢校の学生の実習体験の発表があり、映像資料を使いながら、実習日程、学校の様子、子どもたちや先生方の様子、教壇実習の経験、そして地域の人たちとの交流などをわかりやすく説明し、

実習を通して感じたことや課題を明らかにしました。発表した学生からは、地域・家庭・学校の結びつきの強さはどの学校にも共通していることや、地域の特色を生かした授業づくりをしていることなどが述べられ、参加者ともどもへき地・小規模校教育の良さを再認識していました。

午後の部では、士別市立中士別小学校の宮下敏校長から、へき地教育実習を受け入れたことにより、児童の社会性によい影響があったことや、教員の指導力・授業力の向上などの教育効果が報告されました。また、和歌山大学教育学部助教豊田充崇先生から、同大学におけるへき地教育実習について本学と共通する教育効果が報告され、今後の課題解決のために相互の交流が必要であることが述べられました。

ディスカッションでは、参加者から、「へき地教育にもっと目を向けていこうと思った」、「へき地教育実習に行ってみたくなった」など意欲的な意見が出され、このワークショップを踏まえて、次年度への取組へつなげるべく、盛会のうちに終了しました。



(企画課)